

## [成果情報名]長崎県のブドウ園におけるクビアカスカシバの初発生

[要約]ブドウ栽培園に設置したフェロモントラップにより、長崎県におけるクビアカスカシバの発生を初めて確認した。県内でブドウ枝の被害は確認されていないが、今後、注意が必要である。

[キーワード]ブドウ、クビアカスカシバ、フェロモントラップ

[担当]農林技術開発センター・果樹研究部門・カンキツ研究室

[連絡先](代表) 0957-55-8740

[区分]果樹

[分類]指導

---

### [背景・ねらい]

クビアカスカシバ *Toleria romanovi* は近年、ブドウの主産地で被害が問題化している害虫である。成虫の体長は 3cm 前後で、スカシバガの中でも大型である。幼虫が主幹部や太枝の粗皮下を溝状や環状に食害し、環状に食害された場合には、枝や樹全体が枯死に至りやすい(原色 病害虫診断防除編、農山漁村文化協会)。

2006 年頃にクビアカスカシバ用のフェロモン剤が開発され、現在では、各県で発生消長等が調査され始めている。近隣の福岡県は以前より本種の発生が確認されていることから、本県での発生と被害の状況について明らかにする。

### [成果の内容・特徴]

1. 2009 年は、大村市 1 頭、松浦市 2 頭、時津町 3 頭と誘殺された頭数は少ないものの、クビアカスカシバ(写真 1) が長崎県内のブドウ園で発生していることを確認した(表 1)。なお、2008 年には大村市でのみ調査を行ない、1 頭のみ誘殺されている。
2. 2009 年のクビアカスカシバの発生時期は、6 月中下旬と 7 月下旬～8 月下旬であり、山梨県の調査(5 月下旬～8 月下旬)と一致する。
3. 調査を実施したブドウ園では被害痕は見つからず、県内のブドウでの被害は現在のところ確認されていない。

### [成果の活用面・留意点]

1. 本種の確認には、ブドウの生育期に枝から虫糞やヤニが出ている部位で、枝の中にいる幼虫を探し、幼虫の体色が薄い赤紫であれば本種と考えられる。白色ならばカミキリムシやコウモリガ等の可能性が高く、虫糞に幼虫の吐糸が見られる場合は、コウモリガの被害と考えられる。
2. 耕種的防除法としては、生育期の幼虫の捕殺がある。また、繭の形態で比較的浅い地面に越冬しているので、被害確認園では株元の耕起を行なうと良い。
3. 県内のブドウ園でのクビアカスカシバの発生が確認されたので、今後、本種による被害の発生に対して警戒が必要である。
4. 現在、ブドウのクビアカスカシバに対する登録を有する殺虫剤はない。

[具体的データ]



写真1 クビアカスカシバの成虫  
(スズメバチの模様に似ている)

※写真1は鳥取園芸試験場 原図

写真2 クビアカスカシバの幼虫  
(薄い赤紫を帯びる)

写真3 ブドウの被害痕 (環状)

写真4 幼虫の加害位置 (浅い粗皮下)

※写真2～4は福岡農試 清水氏撮影



表1 クビアカスカシバのフェロモントラップによる誘殺状況

調査箇所		5中	5下	6上	6中	6下	7上	7中	7下
2008年	大村市鬼橋町	0	0	0	0	0	0	0	0
	大村市鬼橋町	0	0	0	1	0	0	0	0
2009年	松浦市星鹿町	0	0	0	0	0	0	0	1
	西彼杵郡時津町	0	0	0	1	1	0	0	0

  

調査箇所		8上	8中	8下	9上	9中	9下	10上	計
2008年	大村市鬼橋町	0	1	0	0	0	0	0	1
	大村市鬼橋町	0	0	0	0	0	0	0	1
2009年	松浦市星鹿町	1	0	0	0	0	0	0	2
	西彼杵郡時津町	0	0	1	0	0	0	0	3

[その他]

研究課題名：果樹ウイルス抵抗性健全母樹育成と特殊病害虫調査

予算区分：県単

研究期間：1984年度～

研究担当者：宮崎俊英、寺本 健